

【罪のために神から離れた結果】

この放蕩息子の譬えにある父と子は、神と私たち人間の関係を表しています。弟息子は、父親との関係が壊れ、すべてのものをまとめて家を出た結果、放蕩し、財産を使い果たし、飢饉に見舞われ、豚の餌で腹を満たしたいと思うほどに堕ちていったのです。これは神から離れた罪人の象徴的な姿です。

創世記 1 章 1 節には「はじめに神が天と地を創造された。」とあります。そうであれば、私たちが住む世界も全宇宙も私たちの命も、すべて神のもので、それも、神は完全なお方でありますので、六日間で、空、海、大地、植物、太陽、月、星、生き物いっさいを無からみことばのみでお造りになりました。それを神は見て、「非常に良かった」（創世記 1 章 31 節）とおっしゃっています。それはとても美しく、よくできていたのです。今は、自然災害が多発していますが、それでも自然界の生態系が秩序正しくできています。だから季節が繰り返され、太陽の日と生き物を潤す恵みの雨をもたらしてくださり、私たちは生きることができます。また、私たちの身体を見ても精密機械以上に精密で秩序があります。これは神の作品です。このようにすべてのものを神がお造りになったときは、罪もなく、みな神の許で喜んで礼拝し、それは幸せであったと思われま

す。ところが、放蕩息子のように、神から離れてしまう出来事が起こりました。神が人を造られたとき、「**善悪の知識の木からは、食べてはならない。その木から食べるとき、あなたは必ず死ぬ。**」（創世記 2 章 17 節）とおっしゃいました。ここに神と人との約束があったのです。ところが、神に最初に造られたアダムとエバは、蛇に唆され、その約束を破り、善悪の知識の木から取って食べたのです。これが最初の罪です。この罪のために神と私たち人間の関係が壊れました。その後、アダムとエバがいたエデンの園に神が行かれますと、二人はどうしたでしょうか。神の御顔を避けて、エデンの園の木の間に身を隠したのです（創世記 3 章 8 節）。食べてはならないと言われた善悪の知識の木から取って食べたことに対する罪の負い目が伺えます。ここに神との関係が壊れたアダムとエバの姿があります。その罪を悔い改めて神に謝っていれば、神との関係も回復していたかもしれません。しかし、彼らは謝らなかったのです。なんと、アダムは、言い訳をしました。「**私のそばにいたようにとあなたが与えてくださったこの女が、あの木から取って私にくれたので、私は食べたのです。**」（創世記 3 章 12 節）と言っている。ここでアダムは「あなたが与えてくださった女が、あの木から取って私にくれた」と言って、神と女のせいにして、自分を正当化しようとしています。これが罪の特徴です。私たち全人類は、アダムの子孫であり、生まれながらにしてこの罪を持っていて、アダムと同じようなことをしてきているのです。歴史を見れば、争いや戦争が絶えず、神が造られた大地を浪費し環境破壊を起こし、地球温暖化となっています。そして、やがて滅びの時が来ると聖書には預言されています。これらすべては、この罪がもたらしたものであり、神に造られた人が、神との関係を壊し、神から離れた結果です。

【良い牧者】

聖書では、罪のために神から離れた人を「失われた者」と呼んでいます。なぜ、失われた者なのでしょう。それは、罪のために神との関係が壊れてしまい、神の前に正しく生きることができなくなったからだと思います。これを霊的な死とも呼んでいます。そのために、人はみな、散らされていくように神から離れていったのです。しかし、やがて良い牧者が現れ、この失われたもの、散らされた羊の群れを探し出し、集めて、良い牧草地で憩わせると約束されています。私たちは、自分の力で、神との壊れた関係を回復することは不可能です。しかし、その回復をしてくださるのが良い牧者です。その良い牧者とは、キリストのことです。このキリストは、散らされ、失われたものを探し出し、集め、良い牧草地で養い、憩いの場に導かれるお方です。それは、神と私たちの関係を元の正しい状態に回復させ、もう隠したり、ごまかしたりせず、正常な喜びある安息を与えてくださるのです。救いは、このキリスト以外にありません。